

保育者養成教育機関における模範映像提示・練習映像提出を併用したピアノ実技指導の実践

Combining Music Practicing with the Submission of Self-made Video and Presentation Examples Performances for Pre-School Teachers

中平 勝子 深見 友紀子 赤羽 美希

Katsuko T. NAKAHIRA Yukiko FUKAMI Miki AKAHANE

長岡技術科学大学 京都女子大学 深見友紀子ミュージックラボ

NAGAOKA UNIVERSITY of TECHNOLOGY KYOTO WOMEN UNIVERSITY FUKAMI YUKIKO MUSIC LABO

<あらまし> 保育者養成機関におけるピアノ実技・弾き歌い指導に関する授業改善は、その殆どが対面授業を想定した、非マルチメディア利用型改善である。本実践では、「個人練習」に着目し、学生が間違えやすい箇所に注意を払った模範映像を提示した後、学生の個人練習成果を提出させ、自身の演奏風景を映像で確認させながら期末試験へ臨ませ、昨年度と比較してどの程度変化が認められるかの分析を行った。その結果、次のことが確認された。1)ある特定の曲では効果が認められた、2)3回以上の収録者に対し、その分散が大きく狭くなった、3)収録した楽曲を試験課題曲に指定された場合、学生が獲得する得点は収録しなかった楽曲演奏と比べて高い。

<キーワード> 大学教育、教育機器利用、授業実践、実技指導

1. はじめに

過去において、保育者養成機関におけるピアノ実技、および弾き歌い指導に関する授業改善は、対面による集合授業という制約の中で行われてきた。中島(2002)では、他者からの観察による問題発見・原因究明・解決という形で行った。保育系教育機関では、例えば今泉(2004)の様に「練習カルテ」を導入したピアノ初心者学生に対する個人授業も試みられている。しかし、これらは対面授業を念頭においており、ICTを活用したものではない。そのため、他者観察や文字指導といった、実技再現を不正確にしか行えないツールを利用した指導改善案となっている。これらの方法では、自身の実技を自身で確認できないという問題があり、学生が納得のいく指導を行うことは難しい。

このことを踏まえ、我々は2006年度より、学生が練習する風景を、手軽に撮影可能な「KS-20(研修君、横山他(2004))」で撮影・映像提出を併用した弾き歌い指導を行っている。その結果、ある一定量以上の映像を提出した学生は実技点数も伸びていることから、本方法は実技指導に一定の効果があることを中平ら(2006)は示唆した。一方、個別に注意事項コメントを要望するなど、提出するだけでなく指導も同時に要望している実態も把握できた(深見ら(2007))。

本実践では昨年度の実践を踏まえ、昨年度収集した提出映像を元に、弾き歌いにおいて間違えやすい箇所を抽出し、その統計を取った結果に沿っ

た模範演奏を提示し、それを閲覧させた上で学生の練習成果を映像提出する方法を併用することで、弾き歌いのレベルアップが見込めないかの検証を行った。

2. 実践環境

実践環境は、K女子大学発達教育学部において開講されている「児童音楽I」の履修者105名を対象とした。保育士試験に頻出すると予想される弾き歌い楽曲の模範映像7曲をDVDおよびサーバからのプログレッシブダウンロードによる閲覧を併用し、学生はそれらを閲覧した後2週間の期間内に自身が期末試験時に演奏する曲を決め、研修君を用いて

表1 2006・2007年度の映像提出と試験結果

映像提出(回)	年度	録画人数(人)	平均点(点)	標準偏差
0	2006	14	71.9	7.02
	2007	22	73.5	6.53
1	2006	13	74.0	5.52
	2007	29	73.6	8.01
2	2006	25	74.0	5.34
	2007	20	75.4	7.26
3	2006	23	71.4	16.06
	2007	30	76.4	6.63
4	2006	14	74.6	3.77
	2007	6	77.3	5.82
5	2006	8	77.0	4.38
	2007	1	-	-

録画する。これは義務とはせず、DVD に収録されていない曲を録画・提出することも可としている。期末試験は、3組に分かれて行われ、各組2名の講師が試験監督をつとめ、採点を行う。

3. 実践結果

表1に、2006・2007年度における、学生からの試験前映像提出と弾き歌い試験実技結果を示す。今年度は、昨年度と比べ、映像提出を全く行わなかったものが増加していたが、映像未提出学生の実技試験平均点は昨年度より2点ほど上昇し、標準偏差は0.5程小さい。この結果を即座に分析することは難しいが、ひとつの仮説として、今年度の母集団は、昨年度と比べ、平均的な実技レベルはテスト得点で2点程高いと考えられる。

そこで、この仮説を元に表1を分析する。映像提出回数が1・2回の学生では、昨年度とほぼ同じ傾向が見られる。ただし、標準偏差については昨年度と比べて値が大きくなっていることから、学生の実力のばらつきが大きいことも伺える。一方、映像提出3回目以上の学生については、標準偏差が小さく、平均点の差が昨年度と比べて3～5点ほど開いている。このことは、自主的に映像提出を3回以上行った学生は高得点が得られたことを意味する。

映像提出を行った学生について、参考資料として提示したDVD/プログレッシブダウンロード映像が与えた影響について検証する。

表2に、学生が録画提出した楽曲と期末試験における得点との関係を示す。曲名は、DVD/プログレッシブ映像があるものを示しており、学生はこれらを閲覧している。灰色部は、元データが少ないため、正確な学生の実態を把握できないデータである。曲名にある「その他」は、今回模範演奏を渡さなかった曲で試験を受けたものを示す。曲名にある「収録—テスト一致/不一致」は、実際に収録した、すなわちよく練習した曲が試験

表2 録画提出した楽曲と期末試験における得点との関係

曲名	平均点 (点)	標準 偏差
しゃぼん玉	73.6	4.47
あめふりくまのこ	81.6	2.70
思い出のアルバム	80.5	7.84
とんぼのめがね	72.1	6.23
もりのくまさん	79.0	1.41
犬のおまわりさん	81.7	4.16
ぞうさん	78.7	1.15
その他	76.5	6.94
収録—テスト一致	76.8	6.53
収録—テスト不一致	73.2	7.34

課題曲として課されたか否かによる試験得点の傾向である。「あめふりくまのこ」、「思い出のアルバム」は情感にあふれた楽曲であること、学生は高得点を得ていることから、この2曲については模範映像のうち、正確に演奏する以上の情感表現が模範演奏によって伝わったためではないかと推察される。

また、収録—テスト課題一致の有無によっても期末試験の得点差が3点以上あることから、事前の練習結果を映像提出させる形で期末実技試験を受けることは、実技能力の向上の観点から有益であることを示唆していると考えられる。最後に、その他と収録—テスト一致曲間に大きな差異が認められなかったことから、模範演奏全体の効果をはっきり判断するのは難しい。

5. まとめ

本稿では、模範演奏提示・学生演奏映像提出を併用したピアノ実技指導実践を行い、事前の学習者の努力を引き出すことに成功したことが示唆された。

謝辞 本研究は、平成19年度科学研究費補助金基盤(C)研究課題(課題番号18500742)「教員・保育者養成のためのピアノ実技e-ラーニングコースの設計と開発」の補助を受けて行われたものである。

参考文献

- 今泉明美, “ピアノ初心者学生のためのピアノ授業の試み—集団講義とキーボード・ピアノを用いて②練習カルテ導入”, 日本保育教育学会全国大会論文集, vol.57, pp.560-561(2004).
- 中島卓郎, “実践的指導力を高めるピアノ教育の試み—教員養成教育の場合—”, 信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要「教育実践研究」, No. 3, pp. 31-40(2002).
- 中平勝子, 赤羽美希, 小林田鶴子, 山口尚己, 深見友紀子, “保育者養成教育における映像提出を併用したピアノ実技指導”, 第22回に本教育工学会全国大会講演論文集 pp.421-422(2006).
- 深見友紀子, 中平勝子, 赤羽美希, “ピアノeラーニングに向けて～学生が演奏映像を自主的に提出する試み”, 京都女子大学発達教育学部研究紀要 vol. 3, pp.33-41(2007).
- 横山淳一, 松田信一, 中平勝子, 福村好美, “マルチメディアの取り扱いが容易な授業支援ツールの開発”, 情報処理学会研究報告, Vol. 2004, No. 117, pp.61-66(2004).